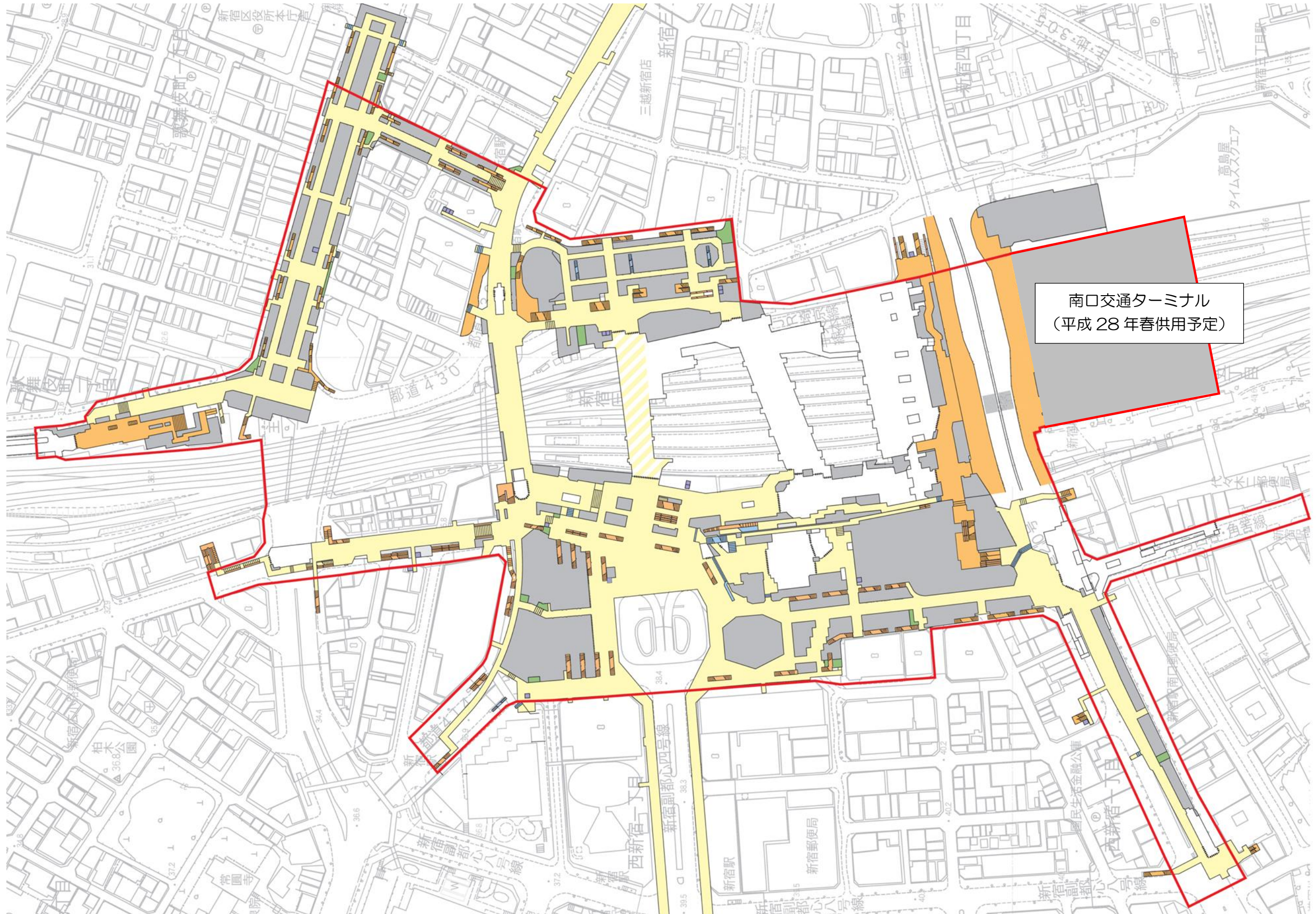


新宿ターミナル協議会の対象範囲



表記の統一性、表現の一貫性を確保する

共通の表記集を作成する

掲載する情報のルールを決める

各社の制約条件を踏まえた共通ルールを定め、統一的なサインを整備する

動線に対し適切に配置する

主な動線に対する配置方法のルールを決める

案内サインに対する商業広告の配置のルールを決める

ソフト対策

バリアフリー対応が可能な施設をサインや共通のバリアフリーマップにより積極的に案内する

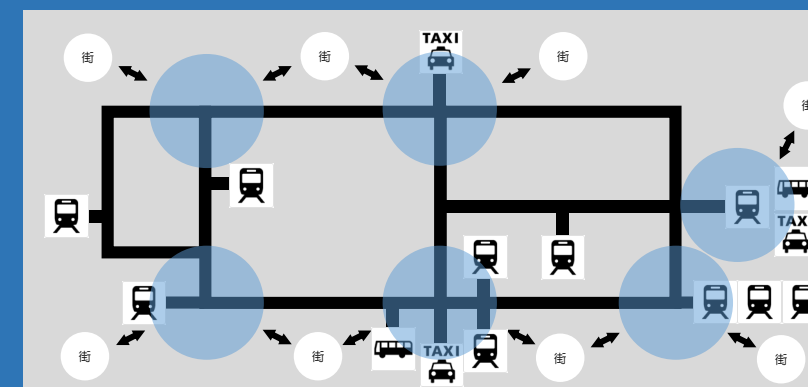
ハード対策

乗り換えの主な動線上にある段差等の障害に対し、可能な限りエレベーターまたはスロープ等を整備する

視覚障害者誘導用ブロック等を乗り換えの主な動線上に連続的に設置する

①案内サインの改善

ターミナルの構造に適した共通のサイン体系を構築する



②バリアフリーの推進

③更なる利便性の向上

既に提供されている情報を分かりやすく整理する

共通のターミナルマップを作成・配布する

既存のサービス、ツールを強化する

案内所、観光ボランティアによる情報提供を強化する

既存のデジタルサイネージ等を活用し、災害時の情報提供を行う

公衆無線 LAN の使用可能範囲の拡大、周知の強化、認証手続きの統一化を推進する

新たなサービス、ツールを整備する

案内所を新設し、乗り換えやまちに関する情報提供を行う

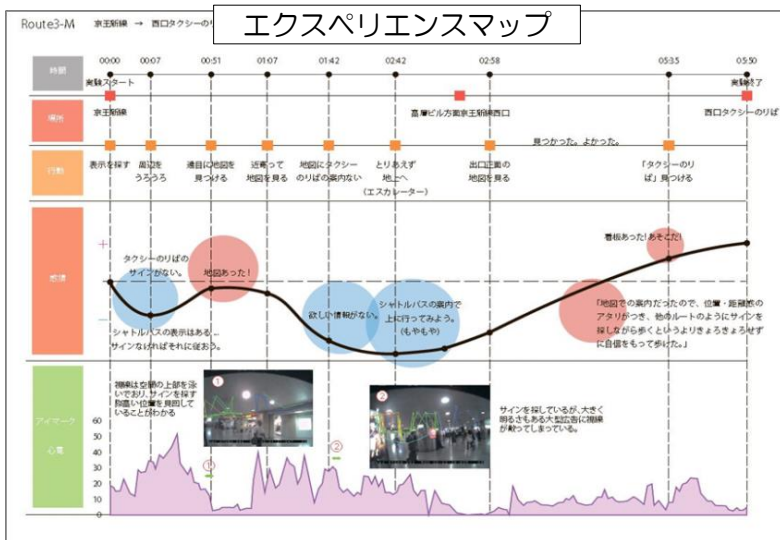
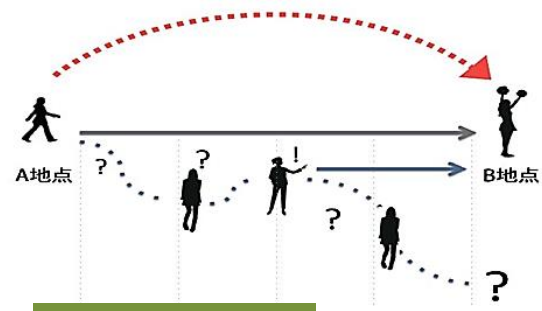
ICT インフラ及びサービスの整備により、利用者の必要に応じた情報提供を行う

①案内サインの改善

経路探索行動からみた現状の評価

「新宿駅における経路探索行動から見た迷うパターンの考察」

首都大学東京システムデザイン学部 笠松慶子教授



3つの迷うパターン

■サインはあるが見つけれられない

- 文字量・情報量が多すぎる
- 物理的に視野に入らない
- 表示形式が異なるため見落とす
- 広告に気を取られる
- バスの案内がわからない

■そもそもサインがない

- 欲しい情報の記載がない
- ターミナル全体を把握できない
- 地上の案内が不足している
- タクシーへの案内が不足している
- バリアフリー対応の施設の案内が不足している

■事情によりサインを辿ることができない

- 階段等によりサインで示されたルートを通ることができない

現地調査からみた現状の評価

表記

表記の統一性

例) 大江戸線新宿西口駅を示す名称

⇒同一のものであると認識できない可能性があるため、統一化が必要

例) 京王新線を示すピクトグラム

⇒文字情報を補完する機能に一貫性がないため、統一化による機能強化が必要

表示内容の視認性

⇒移動しながら情報を得ることが困難と思われる箇所もあるため、サインの機能に応じた情報の選定と表記の工夫が必要

表現

表現の一貫性

色彩

⇒同じ機能のサインだと認識しづらいため、統一感のある外観にする等の改善が必要

レイアウト

⇒情報の見落としを防ぐため、表示面のレイアウトに規則性を持たせる等の改善が必要

配置

平面配置、高さ方向の配置

⇒制約条件の多い環境下で概ね適切に配置されているが、場所によっては改善が必要

視認性を考慮した配置

⇒サインの認知の障害にならないよう、商業広告の配置の改善が必要

①案内サインの改善

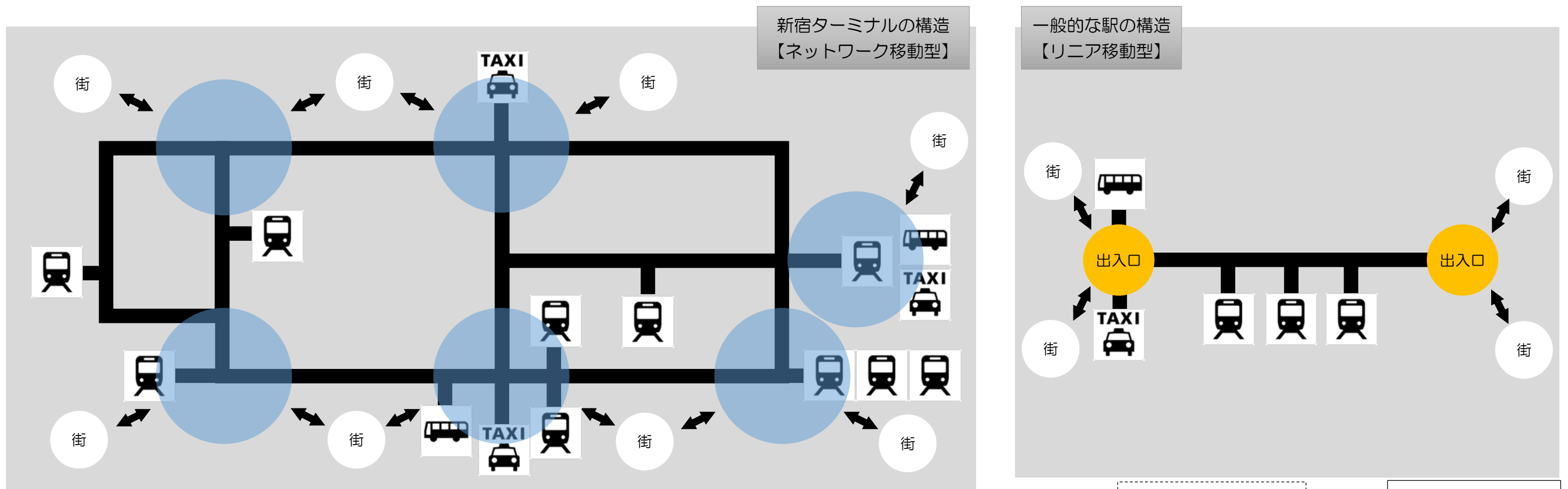
課題の整理		対応方針案	
表記	使用する名称の統一化	共通の表記集を作成する	<ul style="list-style-type: none"> • 方面、交通機関、公共施設、利便施設等、ターミナル内及び周辺で使用する固有名詞、普通名詞をピクトグラムと合わせて統一のものとして整理する • 日本語、英語による表記を基本として整理する • 中国語、韓国語等の他の言語での表記が必要なものを整理し、その表記方法を整理する
	使用するピクトグラムの統一化		
	掲載する情報の選定		
表現	十分な文字の大きさの確保	各社の制約条件を踏まえた共通ルールを定め、統一的なサインを整備する	<ul style="list-style-type: none"> • 管理区域を跨いだ際に必要な情報を見失わないよう、表示面内での情報の配置、書体、色彩等に一貫性をもたせる • 利用者がどこにいても、同じ機能のサインであることを容易に認識できるよう、外観に一貫性をもたせる • 管理区域ごとに、設置できる表示面の大きさが大幅に異なり、文章や数値による規則だけでは一貫性の確保が困難であることから、個別の制約条件を踏まえた具体案を調整する
	色彩の一貫性の確保		
	レイアウトの一貫性の確保		
配置	動線に対する適切な配置	主な動線に対する配置方法のルールを決める	<ul style="list-style-type: none"> • 進行方向の選択肢が複数ある空間の中で、案内すべき主動線を定め、その動線に対してサインが確実に機能するよう、指示サイン、図解サイン等、各種サインの設置位置の考え方を整理する
	商業広告との差別化	案内サインに対する商業広告の配置のルールを決める	<ul style="list-style-type: none"> • 案内サインに対する認知の障害とならないよう、商業広告の設置位置について一定の規則を定める
体系	ターミナル全体構成の概略化（見える化）	ターミナルの構造に適した共通のサイン体系を構築する	<ul style="list-style-type: none"> • 広域かつ複雑な駅構造を、利用者が概略的に理解できるよう、主要なエリアごとにまとまりを設定する • 現在位置の明確化、行き先の単純化を図るため、上記のまとまりを使ったサイン体系を構築する • 利用者が現在地、目的地、進むべき方向を容易にイメージできるよう、共用スペースにおいて、共通のサイン体系を構築する
	現在位置の明確化		
	行き先の単純化		

次ページを参照

①案内サインの改善

新宿ターミナルの構造的な特徴

- 鉄道、バス、タクシーが複数の箇所で結節し、かつ、街との接点が多くある
- 駅と街との境界が明確になっておらず、改札外の空間が、乗換や来街など、様々な目的の歩行者が行き交う空間として使われている
- 交通モードや街への入り口（駅への入り口）が集合しているエリアが複数あり、利用者は、このエリアを結ぶネットワーク型の移動をしている

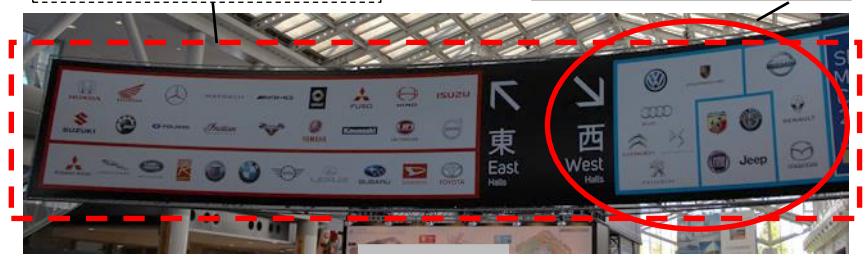


手法：全体構成の概略化

効果：行き先の単純化

構造に適したサインの体系の基本的な考え方

- 広域かつ複雑な駅構造を、利用者が概略的に理解できるように、主要なエリアごとにまとまりを設定する
- 現在位置の明確化、行き先の単純化を図るため、上記のまとまり（＝「集散点」）を使ったサイン体系を構築する
- 進行方向の選択肢が複数ある空間の中で、案内すべき主動線を定める










効果：現在地の明確化

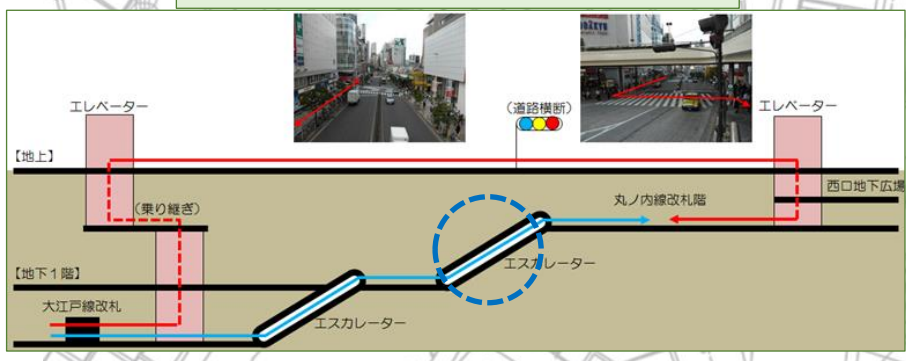
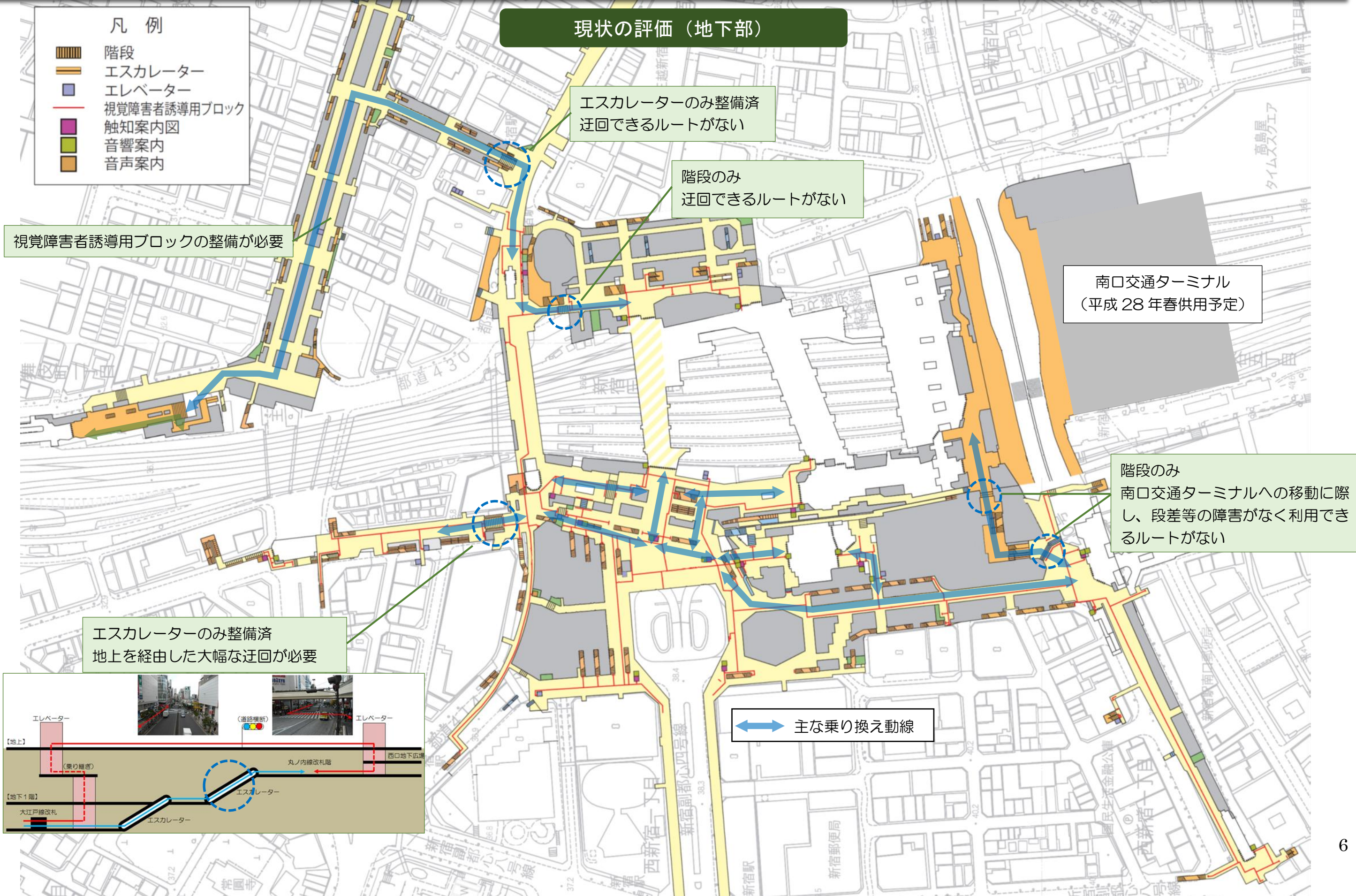


参考例：東京モーターショー2015（東京ビッグサイト）

②バリアフリーの推進

現状の評価（地下部）

- 凡 例
-  階段
 -  エスカレーター
 -  エレベーター
 -  視覚障害者誘導用ブロック
 -  触知案内図
 -  音響案内
 -  音声案内



②バリアフリーの推進



②バリアフリーの推進

課題の整理

乗り換え環境の整備



鉄道、バス、タクシー間の乗り換え動線を対象にした段差解消



単独移動ができる設備の整備



鉄道、バス、タクシー間の乗り換え動線を対象にした視覚障害者誘導案内用設備の整備

案内の強化



バリアフリー対応が可能な施設に関するサインの設置等による現地での案内の充実

■南口交通ターミナル(2016 春供用)、東西自由通路(2020 完成)、西口での再開発等、今後予定されている改変を考慮することが必要

対応方針案

利用者の更なる利便性の向上を図るため、乗り換えの主な動線上にある段差等の障害に対し、可能な限りエレベーターまたはスロープ等を整備する

利用者の更なる利便性の向上を図るため、視覚障害者誘導用ブロック等を乗り換えの主な動線上に連続的に設置する

バリアフリー対応が可能な施設を各社管理区域間で連携したサインや共通のバリアフリーマップにより積極的に案内する

ハード対策

ソフト対策

■南口交通ターミナル供用後を見据えた検討を行いつつ、東西自由通路供用後の有効性についても確認を行う

③更なる利便性の向上

現状の評価

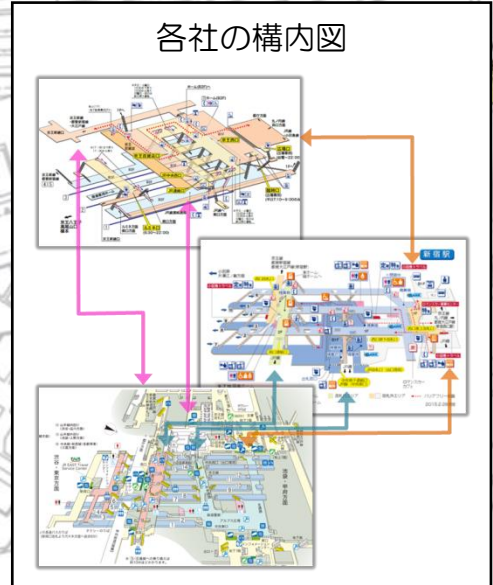
凡例

- 既存の無料公衆無線LAN (概ねの範囲)
- 既存のデジタルサイネージ

案内所
様々な目的の方々が行き交う新宿ターミナルでは、更なる充実が必要

案内所
南口交通ターミナル
(平成 28 年春供用予定)

公衆無線LAN
各社それぞれに無料公衆無線LANを整備済
未整備の箇所もあるため、エリアの拡大が望まれる
更なる利便性の向上のため、利用できる箇所の明示、認
証手続きの連携が必要



各社の構内図のつながりがわかりにくい
ターミナルの全体像がわかるマップ等の作成が必要

案内所
案内所 (地上部)
災害時における情報提供
災害時における情報提供の充実のため、既存のデジ
タルサイネージ等の活用が必要

案内所
案内所
ICTの活用
ICTを活用した統一的なサービスの導入
など、一歩進んだ取り組みが必要



③更なる利便性の向上

課題の整理

乗り換えやまちに関する情報提供の充実



複雑なターミナルの全体像の可視化



英語以外の言語での情報提供



災害時における情報提供

情報を入力しやすい環境の整備



公衆無線LAN環境の拡大と使いやすさの向上



利用者の必要に応じた情報提供ができる
人的サービスの整備



利用者が自由に情報を入力できる
物的サービスの整備

対応方針案（施策の方向性）

既に提供されている情報をわかりやすく整理する

共通のターミナルマップを作成・配布する

既存のサービス、ツールを強化する

案内所、観光ボランティアによる情報提供を強化する

既存のデジタルサイネージ等を活用し、災害時の情報提供を行う

公衆無線LANの使用可能範囲の拡大、周知の強化
認証手続きの統一化を推進する

新たなサービス、ツールを整備する

案内所を新設し、乗り換えやまちに関する情報提供を行う

ICT インフラ及びサービスの整備により、
利用者の必要に応じた情報提供を行う

今後のスケジュール

